

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : Keene State College

留学期間 : 平成 28 年 8 月 22 日 ~ 平成 29 年 5 月 10 日

僕は留学当初、楽しみよりも不安の気持ちのほうが大きかった気がします。それは、そもそも一人で生活するという経験がこれまで一切なく、いきなりの一人での生活がアメリカという異国の地で始まったからです。しかも僕の学校には日本人が私しか在学していないことを向こうで知り、さらに不安な気持ちが押し寄せてきていました。もちろん留学をしている人たちみんな不安な気持ちばかりだと思います。でも楽しい気持ちもたくさんありました。僕自身一度親元を離れたと思う気持ちもあったし、周りが全員外国人という環境に身を置くことができ毎日ワクワクしていました。また、大阪商業大学での僕のクラスには海外留学組が 8 人いて、みなアメリカの違う大学に派遣されていました。そのことを常に感じて励みにしていました。まず向こうに着いてすぐオリエンテーションや学校の手続きなどいろいろな行事がありました。あの時、一つ一つのことに全く理解できなくて、次に何をすればいいのかさえもわからなかった苦い経験を今でも覚えています。でも自分なりに頑張っせてめて次の行動だけでもいろいろな人に身振り手振りで助けを求めて手助けしてもらっていました。自分自身、この留学を通して人との出会いや温かみをたくさん感じたように思えます。またそれは留学中の当初から生活の中でたくさん感じていました。授業が始まってから友達が何人かでき始めました。

僕がアメリカ人の友達を持つようになって感じたのは、一人友達ができるとそこから輪というものがどんどんと広がっていくんだなということです。友達の友達は友達、そのような感覚でした。学校自体も大きくなかったので大学内を歩いていてもいろんな人が自分の名前を呼んでくれてアメリカ流のスキンシップを取って挨拶してくれました。すぐ馴染みやすくて純粋な気持ちでいろんな人たちとコミュニケーションを取ることができました。親友と呼べる友達もできました。彼は、僕たちが仲良くなってすぐに僕が風邪をひいて部屋で寝込んでいた時に、部屋までご飯を持って看病をしに来てくれました。出会ってすぐだったし、まだアメリカでの生活に慣れていなかった僕からすると本当にうれしく、たくさんのありがたみを感じたことを今でも覚えています。その子とは留学生活中ずっと仲良く今でも連絡を取り合う仲になりました。

また、Keene 大学のサッカー部にも入部することができました。留学に行く前から外国でサッカーをしたいと思っていたのですごくいい経験になりました。そこでも日本のサッカー部との違いを感じました。チーム内の雰囲気だったり、練習中の熱気だったりがありました。練習中は本当にみんな本気でチームメイトと言い合っているところを何度か見ました。僕自身も練習のゲームで何度か外されるほど試合に対する熱の違いを感じることができました。

留学中の生活で一番辛かったことが食でした。旅立つ前から予想はしていたのですが、やはり壁にぶち当たりました。学校内に食堂は一つしかなくて、出てくるメニューも基本的には同じもので 3 か月を過ぎてからずっと辛い思いをしていました。でもそのおかげで日本食のありがたみを感じられたし、アメリカ人においし

い日本食を紹介することもでき、日本食の評判もすごくよかったです。

授業に関しても貴重な体験だったと思います。英語だけで外国人に囲まれて授業を受け、単位取得を達成できたことは自分の中で大きな糧となったと思います。ディスカッション主体の授業も経験でき、アメリカと日本の授業の違い等も感じられました。自分自身、この留学をきっかけに様々な考えが変わったと思います。例えば授業に対する取り組み方やコミュニケーションを取る大切さ、また行動に移すことの重要性を感じました。勉強や英語力の向上はもちろん、それ以上に物事に対する考え方、価値観が大きく変わったことが自分の中で大きい成長であると感じます。

この留学を通して得ることのできた経験を就職活動へと生かすことができると考えています。それは、中途半端な気持ちではなくよく考えて、積極的に行動することです。僕がアメリカでできた友達は何事に対しても自分のため、将来のためになるよう精一杯努力し、たくさんのことを考えて行動に移していました。社会人になる上でそうしたことは非常に大切であることを学び、アメリカ社会の偉大さをたくさん感じました。

これから留学をするという人たちには、中途半端な気持ちで留学を考えないでほしいと強く思います。僕自身も行けば何とかなる、と考えていた節がありました。日本の学生は留学をそのように捉えている人が多いと思います。でも現実とは全く違いました。僕は向こうで自分の想像とは全く違うことばかりを目の当たりにして、最初2か月はそのギャップを埋めることに苦労してほかの学生たちに大きな後れを取っていたと思います。日本にいるうちでできること、準備できることは精一杯してほしいです。自分が遊んでいるときでも多くのアメリカの学生たちは図書館で勉強していました。それに気づいたとき自分の中途半端な気持ちは変わった気がします。

そうした準備の大切さを学ぶことができたなら留学先でもきっとON,OFFの切り替えができるような充実した留学生活を送ることができると思います。人生においてこの一年間が本当に貴重な体験であったと、留学生活が終わった今強く感じます。そういったことを理解して人生最大の計画を遂行してほしいです。